



R4, 4月校庭の桜と校舎

## 魔法の言葉



毎朝8時頃になると、子どもたちの学校到着が始まります。玄関では、教務の先生方数名が元気なあいさつとともに子どもたちを迎え、爽やかな朝がスタートします。私も子どもたち一人一人に、できる限り言葉を掛け、1日を笑顔で過ごしてほしいと願いながら他愛ないふれあいを楽しんでいます。



玄関での子どもたちの様子は、元気にあいさつをする子、笑顔を返してくれる子、恥ずかしそうに小声で子、元気がなく無表情でそのまま教室へ向かう子など様々です。印象としては、全体的に朝から疲れた表情の子が多く、あいさつも少ないように感じます。あいさつは、**相手との良好な関係づくり**をしていくために欠かせないものです。それが「会話のきっかけ」となり、徐々に話が発展し、関係づくりにつながっていきます。以前目にした横断幕に、次のようなものがありました。



### 「あいさつは、 心と心をつなぐ魔法の言葉」

これは、小学生が考えた標語ですが、言い得て妙だと思いませんか。これからもっともっと、「おはよう」「ありがとう」と声に出し、友だちや先生、保護者や地域の方と**心をつなぐ風土**を創っていきたいと思います。



校内においても、1学期の生活目標は「あいさつ」として掲げています。子どもたちに、身につけてもらいたい内容として「視線・会釈・素直」など、具体的に例示する中で、意識しやすい工夫を取り入れています。我々教職員も気持ちのよいあいさつを励行していきますので、ご家庭でも引き続き**「あいさつのススメ」**をお願いします。



次号では、あいさつに関する「ある変化」をお知らせします。お楽しみに・・・。



ひやくかん いっけん  
**「百間は一見にしかず」**  
 ～体験活動の重要性～

学校では、教室での座学に加え、教室を出て行う体験的な学習があります。爽やかな季節となるこの5・6月はそれらが目白押しとなり、農園で野菜を作ったり、北小の森へ観察に行ったり、あるいは、学校を飛び出して校外学習にでかけたりします。大きなものとしては、修学旅行や林間学校がそうであるように、低学年生が町探検に出かけたり、中学年生が施設見学に出かけたりするのもその一つです。

これらは、「実際に見て確かめる」ことを目的としており、俗に言う「100回聞くより1回自分の目で確かめる方がはるかによくわかる」というものです。しかし、単に見学に行けばよいというものではなく、そこには、当然ながら確固たる**学習の目的**があり、見学前後を含めた数時間の学習計画の下に実施されます。学習として、中身のある充実したものになるよう、留意して進めています。



**林間学校から**

